



外国文献紹介

思春期特発性側彎症の術後にみられる脊柱管長の伸びに関する3次元CT装置を用いた分析—多施設共同研究

Yahara Y et al : Three-dimensional computed tomography analysis of spinal canal length increase after surgery for adolescent idiopathic scoliosis : a multicenter study. J Bone Joint Surg Am 101 : 48-55, 2019

思春期特発性側彎症の矯正手術の合併症として脊髄損傷があり、脊柱管の長さの伸びと関連があるとされている。筆者らは第2胸椎（Th2）から第2腰椎（L2）の範囲内で矯正手術を実施した77例のCT画像について後ろ向き調査を行った。レンケ分類1型が49例、2型が28例であった。上記範囲の脊椎の3次元CT画像を作成し、Th2からL2までの術前および術後の脊柱管の長さを求め、比較検討した。その結果、脊柱管の長さはレンケ分類1型の症例では平均8.5 mm、2型の症例では平均12.7 mm 術前と比べて伸びていた。また、脊柱管の長さの伸びは術前のコブ角と相関を示した。そして、思春期特発性側彎症の矯正手術では、術後に脊柱管の長さの伸びがみられるが、術前のコブ角がその伸びを予測する指標となると述べている。

瀬戸一彦